

精神障害者家族会懇談会議事録（発言要旨）

発言要旨

※ 連絡協議会に関係するもののみ抜粋。現制度の欠点、将来に向けての要望、特に注視すべき事実のみを列記。箇条書き。

- ・学校でいじめを受けて発症したかもしれない。中学、高校生から精神疾患についての理解を得るための教育が必要。
- ・アウトリーチ支援が重要。家族がつらいときは、支援機関に行くこと、連絡することも大変。そのような時、支援機関の職員が訪問して支援してくれた時は助かった。
- ・親が高齢のため、親亡き後の支援体制が不安。
- ・経済的な問題が大きい。年金だけでは生活が安定しない。例えば特例で1日1～2時間短時間勤務などができるような労働形態があるといい。
- ・精神障害に加え身体症状、障害、難病がある場合、受け入れ先医療機関が圧倒的に少ない。
- ・夜間、休日の相談機関が存在しない。警察に連絡しても対症療法のみしか対応してもらえない。また、専門家でもない。24時間365日相談できる専門の支援機関が必要。ある支援機関が「24時間連絡をください。」と言ってくれた時はとても心強かった。
- ・入院先病院により退院支援に温度差がある。また退院には支援機関が重要。
- ・地域移行支援サービスが法定の6月で機械的に終了され、結果退院がうまくいかなかった。
- ・退院後の行き場（GHなど）が小金井市内に少ない。
- ・病気の発見時、退院時が特に大変だった。本人の気持ちがとても揺れる時期。家族もどうしたらいいかわからなかった。労力もお金も大量に使った。このときの支援がとても重要だと思う。